

**週刊 タバコの正体**

皆さん、タバコの煙ってどこから出ているか気にかけてた事があるでしょうか。火が付いているのは先端でも煙を吸い込むのは反対側ですよね。だから、煙は口にくわえた方から出ているような気になりますが、吸い込んでいない時は火のついている先端から出ています。つまり、タバコの両側から煙は出ているのですが、下図にあるように喫煙者が吸い込む煙を「主流煙」、先端から出ているのを「副流煙」と呼んでいます。

じつは、主流煙と副流煙には大きな違いがあります。主流煙は、喫煙者が吸い込む空気のせいで燃焼温度が高くなり有害物質が燃焼しやすい上、フィルターを通過するので、意外にも有害性は低くなります。対して、副流煙は燃焼温度が低く「くすぶっている」状態なので有害性が高いのです。ということで、なんと喫煙者が吸い込む煙より、先端から出る副流煙のほうが“危険”なのです。



くにか内科クリニックHPから

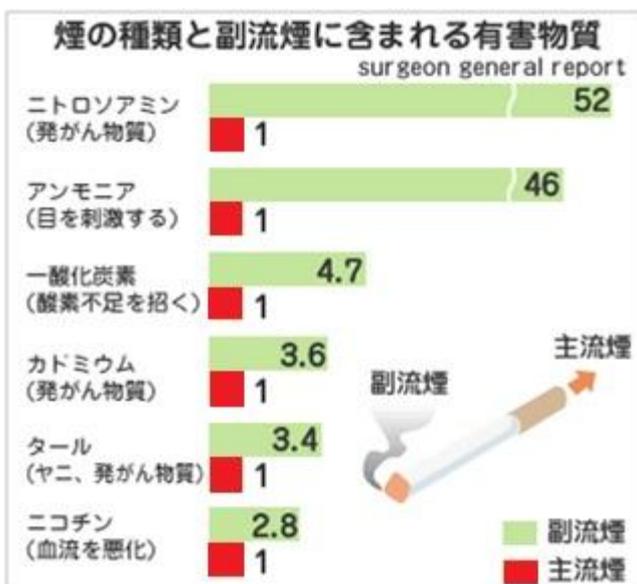
下のグラフを見れば、副流煙がどのくらい危険なのかがわかります。例えば、ニトロソアミンという発がん物質は主流煙の52倍、目を刺激するアンモニアも46倍も含まれています。だから、手に持ったタバコの煙はすぐ目にしみるのです。

さて、主流煙は喫煙者本人が吸い込みますが、“危険”な副流煙は誰が吸い込むのでしょうか。

そうです、喫煙者の周りにいるその他大勢の人が吸い込んでしまいますよね。これが、他人のタバコを吸わされてしまう“受動喫煙”なのです。

いかがですか、こんな事実がわかっただけで、公の場所が禁煙なのは当然ですよね。

産業デザイン科 奥田 恭久



横浜市健康福祉局「禁煙NOTE」サイトから